

対 談 一 周 回 っ て 最 先 端

日時：2023年4月25日

場所：法医学講座集会室（基礎医学棟二階）



創設期の雷鳴祭実行委員・6期生
法医学講座 特任教授
齋藤 一之

学友会文化部長
解剖学講座 主任教授
徳田 信子

「当時はみんな暇だったからね」

徳田 本日は、お忙しい中、お越しいただきありがとうございます。今日は、雷鳴祭というものがどうしてできたのか、また、今の時代に雷鳴祭がもたらすことについて、思い出などを中心に語っていただきたいと思います。それでは、齋藤先生よろしく願いいたします。

齋藤 あの頃の大学付近は、本当になんにもなくてですね、私が卒業してやっとセブンイレブンができたぐらいでした。今と違って、携帯電話はもちろん、テレビもみんなが持っているものではなく、誰か持っている人の家に行ってみんなで見ていたような感じでしたね。だから、特に部活と勉強以外やることなく、雷鳴祭ができたのでしょうか（笑）

徳田 いえいえ（笑）でも、このような文化的な活動があるのは、とても珍しいことで、素晴らしいことだと思います。

齋藤 私は、獨協高校出身なのですが、今から思えば、獨協学園全体に、教養主義的な雰囲気があったのかも知れません。獨協医大を作ったときも、このキャンパスをご覧になればわかると思いますが、すごくゆったりと設計されていて、当時の関係者の大学というものへの考え方が滲み出ていると思います。

徳田 確かに、私もこの大学にきたときそう思いました。大谷石や立派な木々に感動いたしました。

齋藤 そうですね（笑）立派な庭石は、ここの創設者である関湊さんが、自費で買って寄付したものらしいです。こ

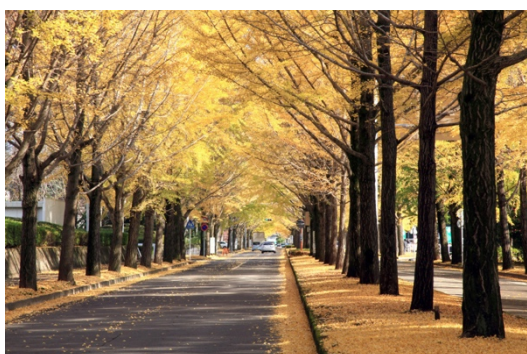
う 50 年たってみると、木々も立派になり、全体に風格が出ていますね。高いビルでも 1 年もあれば建ちますが、樹木に風格が滲み出るまでには長い年月がかかるのですね。

徳田 みんな意外と知らないですが、いろいろなところに工夫がされていて、素晴らしいキャンパスだと思います。

齋藤 やはり、当時の設計に関わった人たちのスケールでしょうかね。50 年後、100 年後を見据えた設計をしています。久しぶりに母校に帰ってきたとき、学生時代には細かった庭木が、風格のある大木になっているのを見て、そう思いました。人を造るということはこういうことなんだと教わったような気がします。



大学設立時の銀杏並木



現在の銀杏並木

徳田 せっかくこのようなキャンパスにいるのだから、学生さんもぜひ探索してもらいたいですね！ そのような心の広い雰囲気が、雷鳴祭を創設する流れを作ったのでしょうか。

齋藤 私が 1 年生の時に、馬場栄治さんをはじめとする先輩たちが、第 1 回雷鳴祭を立ち上げました。当時の学生には、文化的な活動に一生懸命な人が多かったし、先生方も理解がありました。事務の方もそういう活動は積極的に後押ししてくださいました。

徳田 高校の文化祭のようなイメージですかね。

齋藤 それに近いと思います。獨医祭は、獨協大学の文化祭をモデルに作っているのですが、雷鳴祭は、文化部が好みに活動を発表する形で、学内向けの発表会のような感じですね。それで、よそから壬生の地に来てみると、この時期、凄まじい雷雨にびっくりしますよね（笑）「雷鳴」という名前はごく自然についたのです。

徳田 それにしても、雷鳴祭という文化的な活動を創設したということが、本当にすごいと思います。

齋藤 当時はみんな暇だったからね（笑）こういうことでもしないと、本当にやる事がなかったんですよ。何かしなきゃという感じもありましたし、都会と違って刺激も少なかったですし。

「暇というのはすごい大事」

徳田 でも、暇で文化的活動に精を出すところが、なかなか素敵だと思います。

齋藤 暇というのはすごい大事なことですよね。人間、暇がないと精神的にやられてしまいます。

徳田 それ思います。なんだか、暇というのは、心の余裕に繋がりますよね。

齋藤 自分を見つめ、芸術や学問を深めるには、暇でないとね。そもそもスクール (school) は、ギリシャ語の schole (暇) からきていると聞いたことがあります。雷鳴祭というのは、当時だったからこそ思いついたアイデアだったのかもしれませんが。今の学生は、スマホがあるから、本当の意味での暇はないのかもしれませんがね。

徳田 本当に、スマホの影響力というのは凄まじいものですよ。

齋藤 ええ、ものすごい影響力です。講義中にスマホを触っている人がいますが、触っているのはもちろん、触っていなくても、机の上に置いているだけで、先生の話の情報を収集する力は落ちてしまうそうです。スマホがなんでも教えてくれると、脳が無意識にそう思って省力化していると。

徳田 本当に最近が多いですね (笑)

齋藤 人間が成長するためには、失敗がないといけません。結果ではなく、プロセスが大事なのです。スマホはそのような機会を奪っている気がします。

徳田 その通りで、インターネットというのは、知りたい結果が一番上に出てくるから、悩むプロセスが全カットされてしまいますよね。

齋藤 その悩むプロセスが、多ければ多いほどいいんですけど (笑) 本当の意味での暇というのは、悩むプロセスにとって必要不可欠なものです。今の時代には、その機会がほとんどないと思います。

徳田 将来医療に携わる上で、そのような機会はたくさん経験しておいた方が良いですよ。

齋藤 学生のうちに、たくさん悩んで失敗するのが良いと思います。勉強でもそうです。基礎医学というのは、臨床医学を理解する上でのプロセス、基礎体力になります。CBT や国家試験にただ合格するだけなら、過去問をやり込んだり、覚えるものだけ覚えればいいのですが、それではウィキペディアで病名を調べた人と同じで、本質には触れられません。医学部というところで医学を学んでる意味はないと思います。

徳田 その程度なら、AI でできてしまいますね。今は、AI がすごく発達してきていて、人間の能力を超える部分も多いですが、人間でなければできない部分というのが、医療界には多くあると思います。

齋藤 解剖学実習などは、まさに人間にしかできないことですよね。元通りには戻せない環境の中で、悩みながら緊張感を持って学びますから。AI にはできないことです。

徳田 その通りです。医療は、試験に受かる知識だけでできることではありませんし、医学に関係のない教養も身につけなければ、患者さんと接するのはかなり厳しいです。心に余裕がなければできないことです。

「誰が読むんじゃー！」

齋藤 雷鳴誌の第2号などをみると、医学に全く関係のない内容が多くありますね。「溪流釣りのテクニック」や「大井川鉄道のC11を追って」などマニアックなものまであります(笑)

徳田 すごい... 「国鉄の新運賃体系について」なども、誰が読むんじゃー！って感じですけど、これがまたいいですね(笑)

齋藤 そうでしょ(笑) 一般原稿などもあって、楽しい雑誌ですね。

溪流釣りのテクニック

フィッシング・クラブ

ヤマメ、イワナ釣りの楽しみは、何と言っても渓流と言う自然の風景の中に自分と言うものを投入出来る所にその魅力がある事です。つまり自分が主人公であり、それを花をそえてくれるのが、ヤマメ、イワナ達なのです。源流から始まり、V字谷の岩肌を離れ雑木林を白濁を立てながら流れる渓流で、イワナは精であり、ヤマメは女王なのです。その魅力に取り付かれた人たちは、今までに数える事の出来ないくらい多いのです。では、どこにそんな魅力があるのでしょうか？ それは、やった事のない人には、むずかしいかもしれませんが、あの美しい魚体を見ると、今までの苦労が

吹き飛んでしまうのです。野球だって経験のない人には、感動が湧かないのと同じ事だと思います。では、なぜヤマメ、イワナ達が、ミステリアスなのでしょう。それは魚類の分類から言っても、一番原始的であり、それだけに用心深くて人影でも見るものなら決して釣れません。それだけに、いかにして釣ってやろうかと苦心するわけです。そのテクニックについて、ここで少し話をして見ようと思います。第1には、いかに早くポイントを見えるかです。その為には、魚の習性を見逃す事は出来ません。季節、気温、水温、水色によって魚の居住が変化し、魚が左右されてしまいます。しかし一般的には、溝を巻いている所、二つの流れが衝突する所、落ち込み、突き出た岩の隙、駆け上り、川の曲点、石の裏側などです。それそれについて図示してみよう。

溝を巻いている所 二つの流れが衝突する所 落ち込み 突き出た岩の隙

×: ポイント

駆け上り 川の合流点 石の裏

×: ポイント

-38-

大井川鉄道のC11を追って

鉄道研究会

今回、我々は現在日本で唯一の現役SL・C11型蒸気機関車(通称Cのチョンチョン)を追ってみました。さて、C11の紹介の前にこの機関車の走っている大井川鉄道について御紹介しましょう。最初に沿革です。大井川をめぐる鉄道は明治22年東海道本線が開通し、明治31年には別川改修のため大井川にSLが走り、同じ年島川に人車軌道が開通しました。一方、大井川の水源は明治以後盛人となり、大正期にはプロペラ船を運行したが鉄道の必要性にも迫られて、大正7年に大井川鉄道の前、駿府鉄道が創立され静岡⇄千原間の鉄道建設を計画。大正10年、コースを島田⇄千原に変更の免許を受けました。大正11年には大井川鉄道と改名し、古いルートで金谷⇄千原に改めて起工し、昭和2年6月より金谷⇄横岡の運転を始めました。SL(蒸気機関車)はドイツ製のコッペル社CタンクNo.5・No.6で客車は国鉄社下製の英語式マッチ箱客車を用いました。当時の大井川鉄道の目的の1つは、南アルプス御料材の木材運搬でありました。以後、トンネルと鉄橋の補修工事を続けて昭和6年12月1日、金谷⇄千原間39.5kmが全通しました。レールはドイツ製やアメリカ製のものを使い、一部は今も現役に残っています。SLは昭和4年から6年にかけて日立川崎工場で新造されました。この機関車は50t級のC12の前進的存在でしたが牽引力はC12より大きいものでした。一方で、昭和5年よりゼンリンカー(現在のディーゼルカーの前身)を投入しスピードアップをはかりました。昭和10年9月には、木材輸送に加え、ダム工事などの貨物が急増したのに対し、C12を新造し同12年には国鉄と同型の100型鋼製貨車を多数新造して全国へ直達させて輸送力を増強させました。又同11年にはキハ100を新造しました。しかし、昭和15年頃から石油節約のため、キハをサハ化

(付随車化)してSLに牽引させました。戦時中は輸送増に伴ない、C11やC12などが国鉄から借入使用されました。昭和19年には東海道本線のバイスの使用のために大井川鉄道にD51が実験的に走りました。戦後の大井川鉄道は燃料不足によるSLの閉鎖と多客のために、乗客は貨車へ乗るあり様でしたが、抜本策として昭和24年11月、1500V電化が完成し、E10型電気機関車が主力となり、SLは引退しました。昭和27年より井川ダム建設のため井川線(市代⇄井川⇄望翠)が着工され、多くの犠牲者を出した補修工事の末、昭和29年9月に開通しました。昭和32年には毎週ダム工事が始まり昭和34年には多数のセメント列車が走りましたが、昭和36年、ダムが完成する一方、観光客が急増したため、赤とクリーム色のツートンカラーの本格的な客車が登場しました。昭和39年、井川線沿線が大井川国立公園となり周遊コースに指定され、シーズンには10両編成の列車が魚鷹員になる程の乗客となり、最近も増加を続けています。そして、昭和45年に文化的保存のためにB6型2109号の動態保存を始め、1275型、9600型、C11、C12などの保存も図りました。SLの動態保存と共にマスコットが大井川鉄道が登場することが多くなり、NHK「新坊っちゃん」「鳩子の橋」など多数のテレビドラマや映画の場面に登場しました。又一方で、昭和45年からレールの強化、自動信号化、列車無線の設置を行ない、スピードアップと運行の安全化をはかりました。そして現在の大井川鉄道の姿があるわけです。次に現在の大井川鉄道について御紹介しましょう。東海道本線の金谷駅を起点とし、大井川に沿って山を縫うように走り家山を経て千原まで39.5kmを結んでいます。本線は全線単線で列車本数はその総容量一杯の1日約70本です。列車はSL急行「かわね路」を始め数本の急行と国鉄からの直通列車が走っています。面白いことに、急行の中には車庫内にジューズの自動販売機を積んでいるものもあります。さて、路線の説明をしましょ

-31-

「雷鳴誌 第2号」より

国鉄の新運賃体系について
鉄道研究部

本年4月20日より国鉄の運賃・料金制度が、大きく改定されました。従来は、大都市近郊私鉄競合区間等に多少の例外的な扱いがあったにしても、原則的には乗車した距離により運賃が決まる、という制度でした。

しかしながら、今回の改定では、全線区を幹線・地方交通線(ローカル線)に分け、各々別の運賃計算ルールが設けられ、又、幹線・地方交通線(以下地交線と略します。)を乗り継いで利用する場合にも、別の計算方法を用いるようになりました。

具体的に説明しますと、幹線(栃木県では、東北本線・両毛線・水戸線)だけを利用する場合には、時刻表に掲載されている「営業キロ」から乗車距離を算出し、幹線の普通運賃表を用いて計算します。地交線(栃木県では、足尾線・日光線・真岡線・烏山線)の場合にも「営業キロ」を用いて計算しますが、この場合には地方交通線の普通運賃表を参照します。更に幹線と地交線を乗り継いで利用する場合(例えば、小山から東北本線で宇都宮へ行き、宇都宮から日光線を利用して日光へ行く場合)には、幹線の区間に乗車する営業キロに地交線の換算キロ(時刻表の地交線営業キロの右側に書いてあります。)を加えた運賃計算キロを算出し、これを幹線の普通運賃表に照らして計算します。上記小山—日光間の場合には、東北本線、小山—宇都宮間の営業キロ28.9kmに、日光線宇都宮—日光間の換算キロ、44.6kmを加えた73.5kmが運賃計算キロとなり、これを幹線の普通運賃表に照らすと、1090円という値が出てきます。多少前後しましたが、幹線・地交線のみを利用する場合の具体的な計算例も示します。幹線である東北本線を利用して、宇都宮から

黒磯へ行く場合には、この区間の営業キロ53.8kmを幹線の普通運賃表でみますと800円となります。次に地交線の場合ですが、足尾線で群馬黒磯生から足尾へ行く場合、黒磯—足尾間の営業キロ44.1kmを地交線の普通運賃表で見ると、700円という値が出てきます。(言い忘れましたが、1km以下の距離は全て1kmに切り上げます。)

以上のように今回の改定では、これまでになかった地方交通線・営業キロ・換算キロ・運賃計算キロ等の新しい営業ができたため、運賃計算方法が、かなり複雑になり、とまどう人も多いと思うのもう一度、これらの営業をまとめて説明してみます。

- ① 地方交通線—いわゆるローカル線
- ② 営業キロ—幹線・地方交通線のみを利用する場合、用いる運賃計算の要素
- ③ 換算キロ—幹線と地方交通線を連続して利用する場合に地交線の区間に用います。
- ④ 運賃計算キロ—幹線と地交線を連続して利用する場合、幹線の営業キロと地交線の換算キロを加えたもので、これにより幹線地交線両方に乗る場合の運賃計算を行ないます。

以上が今回改定された国鉄運賃体系の概略ですが、例外的な扱いとして、大都市圏(東京・大阪の国電区間)は、1—3km区間120円(他幹線は130円)4—10km区間は140円(他は150円)と若干割安になっていること、又、東京・大阪・名古屋地区の私鉄等と競合する区間。(例えば東京地区では京王電鉄と競合する新宿—八王子間など)では、上記の基準より更に安くしています。

これで今回の運賃・料金制度の大まかな説明を終わりますが、今回はこの改定と併せて、旅客運賃・料金が平均で、8.2%値上げされました。皆さんが東京から栃木へ帰る場合などに私鉄の運賃

「雷鳴誌 第7号」より

眠り

Neuroscience 研究サークル

春の目覚しが気持ちよく降り注ぎ、蛙や蛇も冬眠から目覚め、地から這出ようとしている。それと共に人は眠気を覚え、春だなあ、と体で季節を感じるようになる。暖い目覚しの中で寝床から這出るのは磨礫な季節なのである。このような暖い春を歌った詩として中国の詩人、孟浩然の「春曉」が有名であり、私が春になると思いつく詩である。

春曉
春眠不覺曉
處處聞啼鳥
夜來風雨聲
花落知多少

なんと心地の良い詩である。春の一日がまるで夢の心ごとく、そして春も一夜の夢のように過ぎ去るように感じられる。山の水々を見詰めれば、昨日の枯木が今日は若葉が繁り、そして明日には濃く青々と繁った木々になる。まるで雪解け水の凍れるように姿を変えていく。人の人生もまた春のようなものかもしれない。しかし、あの青々と繁る木々も冬には堅いつぼみを持つ木々であったことを忘れずにはいられない。

現在、我がクラブでは「ねむり」について研究している。もうみなさんは、睡眠はREM睡眠と non REM睡眠よりなることは御存知のことと思う。

今回は、この睡眠の各 stage の判定基準について書いてみたいと思う。

この stage づけは国際分類に基づき、未熟ながら当クラブの意見を加えたもので、別の表のようにまとめてみた。

REM と NON REM 睡眠における生理現象の比較

	NON REM	REM 睡眠
脳波の変化	stage 1-4	睡眠段階1に類似
眼球運動 (EOG)	遅くて、ゆっくり	素早い
筋電図緊張 (EMG)	減少の傾向	消失
脈拍数	減少	不規則(増加)
呼吸 (RESP)	減少	不規則(増加)

さて、合宿の時の思い出を、合宿に参加したK君に書いてもらった。

合宿の思い出

私達が遊でも見に行かたことがある、あの大きな画面は、手に取れるようなコマで1秒に何十枚ものコマで構成されている。1本の長いフィルムを1コマ1コマ進めていくと同様のものが、映画として上映されると生き生きした映像がとうとうと流れ、私達の心を魅了させてしまう。映画を見に来る人はそんな1つのコマなどには関心もなく、笑い、泣き、そして帰っていく。私達が1年間、活動してきたことも1本の映画製作のようなもので、1コマ1コマを作り重ねてきたことと変わりはない。知らずしてクラブの1つの映画を作ってきたような気持ちであり、その1コマ1コマには辛いことや楽しいことが積み付けられている。このたくさんコマをつなぎ合わせると、私の脳裏には1本の小さな映画となり、そして駆け返っていく。今になって思い起こせば、夏の合宿

「雷鳴誌 第2号」より

徳田 こういう雰囲気大好きです！
とても文化的ですね。

齋藤 この第2号の雷鳴誌は、私が編集したのですが、釣り部の挿絵は、釣り部に全く関係のない私を書き直しました(笑) 編集も若林さんという松井ピテオ(印刷屋さん)の担当の方が親身になって教えてくれました。

徳田 そうなのですか(笑)

齋藤 なかなか大変でしたね(笑)

今見るといい思い出です。ほんとに、こんな記事をみんな真面目に作っていたのですよ。

徳田 最高ですね! 私も、学生時代は人形劇に没頭しました。そういう医学に一見関係のない経験は、医師になってからとても生きてきます。

齋藤 学生時代に没頭するものがあると、40年後に振り返ってみて、懐かしいし、意外と後々役に立っていることが多いですね。

徳田 雷鳴誌をみていると、自分が学生だった頃を思い出します。私の母校でも、様々な研究会がありましたね。

齋藤 ニューロサイエンス研究サークルには、副学長の平田幸一先生の名前がありますね。

徳田 ほんとだ！ 他の雷鳴誌を見ると、麻酔科の濱口先生や消化器内科の入澤先生の名前もありますね。眼科の妹尾先生の写真作品もある！

齋藤 妹尾先生は、獨協高校の同級生でもあります。写真が得意でしたね。

徳田 先生方の意外な一面を知ることができ、大変興味深いです。各部活の誌面発表が充実していて、数十年経って読んでも、楽しさがありますね！

齋藤 今もまだあるのかわかりませんが、私たちが学生の頃のタウン誌「びあ」など、雷鳴誌はそれに近いものだったのではないのでしょうか。当時はインターネットなどないですから、このような情報誌から情報を得るしかありませんでした。

徳田 懐かしい... 読みました。あれも時代ですね～

齋藤 雷鳴誌もきっと時代の流れと獨協医大の雰囲気歴史を物語っていますよ。それこそ、さっきの「国鉄の新運賃体系について」は、今ならインターネットで調べればでてきますから。今だったら、このような記事は誰も書かないでしょう。

徳田 確かに。当時と今での雷鳴誌というものへ考えも変わってきているのかも知れませんね。

齋藤 文化というものは精神的なものなので、暇が少ない現在では、雷鳴誌を含め雷鳴祭に対して、今の学生は当時とは違う見方をしているのではないのでしょうか。

「一周回って最先端」

徳田 暇のないこの時代に、雷鳴祭という文化的活動をやるというのは、心の余裕を作る良い機会になるのかもしれませんがね。

齋藤 確かにそうですね。今の時代には、当時とは違った角度で、大切な機会になると思います。

徳田 原点回帰じゃないですけど、こう一周回って最先端なことかもしれません。昔の暇な時代の催し物が、今の時代では、足りない能力を補う最先端なやり方という（笑）

齋藤 上手くまとめて頂きました（笑）ぜひ、久しぶりに雷鳴祭を開催するこの機会に、色々試行錯誤してみたいです。

徳田 とても楽しみです！ 最後に、齋藤先生から今の学生さんへのメッセージをお願いいたします。

齋藤 今回、40年前の雷鳴誌をみて、懐かしくてジーンとききました。あの頃の学園の空気まで蘇ってきました。後輩たちには、後に懐かしいと思える日々を過ご

してほしいと思います。損得勘定抜きで、好きなこと、興味のあることに悩みながら没頭できるといいですね。自分のことを考えると、学生の時は、色々失敗して、人間の幅が広がる最後の機会だったかもしれません。学生時代が終わると、深くはなっても、横への幅が広がることは少なくなります。ぜひ、幅を広げてほしいですね。勉強もしっかりしなければですが（笑）

徳田 私も、獨協医大のこの素晴らしい伝統や雰囲気をつなげていければと思います。本日は、お忙しい中、貴重なお話をありがとうございました。